

市民レポーターの皆さんが、市内のさまざまな場所に出かけて、市民ならではの視点から小牧の魅力や身近な話題について取材した様子を、毎月紹介していくコーナーです!

REPORT 217

公衆電話 激減!

昭和の頃は、どこの家庭も、コンセントを必要としない黒い固定電話でした。指で回してダイヤルをするタイプです。公衆電話と言えば、昔は赤色で、薄ピンクや黄色、グレーなどもありました。最近では、ほとんどが写真にあるような緑色だそうですね。

携帯電話の普及による利用者の減少に合わせて公衆電話の数も、

ひと昔前ならほぼ一家に一台あった固定電話ですが、現在は、約3割の家庭では固定電話がないそうです。合わせて、めっきり台数が減った公衆電話。今回は、公衆電話について、いろいろ調べてきました。この機会に、自宅付近の公衆電話の場所を確認してみてください。



現在の公衆電話です

小牧市内の公衆電話の場所は、右下のQRコードを読み取るか「NTT西日本 公衆電話 設置場所検索」で検索すると、確認することができます。



災害時のために公衆電話を見直してみよう

利用してみよう

めっきり減りましたが、その中でも第一種公衆電話（※）については、設置基準の変更によって全国10万9千台から約3万台まで設置の見直しをすすめるため、今後愛知県内の公衆電話はさらに減少するそうです。

大規模災害時には、発信規制によって携帯電話や固定電話が繋がらなくなる可能性があります。公衆電話は「災害時優先電話」なので、一般の電話に比べて繋がりがやすい



右上の公衆電話は、車いす利用者用電話ボックスで、市民会館の北西角にあります。左上は、道路沿いや会館前などに多くあります。右下は施設内にあり、左下は、コンビニエンスストアなどの店頭にあります。



そうです。東日本大震災当時は、公衆電話に行列ができたそうです。しかし、公衆電話を利用したことがないという人が増えていて、使い方が分からない子どもが多くなっているのが現状です。災害時のために子どもたちに公衆電話の使い方を知ってもらいたいと思います。

家族で確認を!

現在、市内の固定電話への通話(昼間)なら10円で56秒話すことができます。市外は距離によって変わります。2024年から固定電話への通話は全国一律で、10円で56秒通話できるように変わります。

す。また、テレホンカードも昔と変わらず使えますが、災害時には使えなくなる場合があります。メールもラインもインスタも良いけれど、災害時に頼りになる公衆電話がどこにあつて、どうやって使うかなど、家族で話してみたいかがですか。

(※) 第一種公衆電話とは

外出時等での最低限の通信手段として、常時利用することができる場所または、容易に出入りすることができ施設内の目につきやすい場所に設置することが法令等により義務づけられている公衆電話

編集後記



みくる

一時期は、外国の人がよく利用するイメージもありましたが、最近では見かけなくなりました。今回、さまざまな公衆電話を巡り、楽しかったです。自分の子どもにも公衆電話の使い方を教えなければと思いました。

公衆電話に関する取材先

NTT 西日本 東海支店

豊かな大地で心もお腹も豊かになろう



広大な畑が続き、空が広く見えます



落合さん④と娘の秋田さん

市内東部で広大な農地を何百年も受け継いできた落合がよ子さん。現在、リッチファームという体験農業を始め、たくさんの人たちの交流の場にもなっています。リッチファームに行ってきました。



タケノコ、桃、柿、みかん、そして米など四季折々の旬を体感できます。家族連れやカップルだけでなく、子ども会や会社のレクリエーションでも多くの人が訪れます。収穫体験だけでなく、竹細工ワークショップなども開催。今夏はかき氷体験を予定しています。繁忙期以外なら桃の木の下で記念撮影やフォトウエディングも計画中です。

代々広大な農地を受け継ぎ、農業一筋だった落合さん。年を重ね、農地の世話をすることが大変になってきました。娘の秋田良枝さんは、母の大変さを見てきたことから、今まで通り受け継いでいくのか、私ができるのか、それとも新しい何かに挑戦するのか、真剣に考え、7年前に体験農場・リッチファームを立ち上げました。「リッチファーム」という名前には、豊かな気持ちになってもらいたいという思いがこもっています。

あつまれる居場所

人と繋がっていくことが得意な良枝さん。農業をやってみたい人もいいし、少しでも自然の中に身を置いて



てみたい人もいい、体を動かしたい人もいい、誰でもが集まれる、来られる居場所を作ろうと考えました。最近では、SDGsに取組み、「SDGsの青空カフェ」を継続的に開催するなど、社会の問題にも積極果敢に挑戦しています。

スーパーおばあちゃん

体験農場にするのも最初は難色を示していた落合さんですが、今では「看板娘！」になりました。笑顔を見るのが大好き、子どもが大好き、自分を飾らず、話が大好き、喜んでもらうことが一番好き！と話すスーパーおばあちゃんです。

楽しいから始まる

「収穫や旬のものを味わうという体験から、農作物が実際にどうやって育っているのか、どうやって収穫するのかを知り、農業に目覚めるきっかけになるのではないか。さらには仕事としての農業に取り組む人が増えたらいいですね」と、話す秋田さん。

リッチファームの思い



が農業を盛り上げ、小牧市を盛り上げることにするために日々、奮闘しています。

編集後記



ヤンメイ

桃の品評会でも何度も賞を取っているそうではお墨付き。さらに落合さん母娘の気兼ねないトークも魅力の一つ。長年通い続けるお客様や手土産を持って買いに来られるお客様もいるそう。なんだか自分の田舎に帰ったような気分になれるかも。

今回の取材先

リッチファーム



場所：上末56-1
営業時間：9:00～18:00
定休日：不定休



《お詫びと訂正》5月号の小牧市善意銀行の「フードドライブ受付場所・日時」で東部市民センターの開催月が「1、4月を除く」とありましたが「1月を除く」の誤りでした。訂正してお詫びいたします。